

厚生労働省は公的職業訓練に「ハロートレーニング」という愛称を付け、新たな職業やスキルに挑戦する人たちの応援施策を展開する。キャッチコピーは「急がば学べ」。各産業で将来を担う人材の不足懸念が高まる中、公的訓練を通じて技能を習得してもらい、就職先でのミスマッチの解消や技能を高めた人材による生産性の向上に役立ててもらおう。安藤よし子人材開発統括官に公的職業訓練の「これから」を聞いた。

——厚生労働省が取り組む公的職業訓練とは。

「就職に必要な技能を求職者に身に付けてもらい、よりよい職に就けるようにするセーフティネットとしての『求職者訓練』、在職者や学卒者、障害者を対象にした『公共職業訓練』の二つがある。国をはじめ高齢・障害・求職者雇用支援機構や都道府県の取り組み、民間教育訓練機関への委託など、さまざまな形態での活動がある」

技能教育 レポート

——公的職業訓練に愛称やキャッチコピーを付けて施策を展開している。

「職業訓練には『暗い』『きつい』といったイメージがあり、そもそも存在を知られていない



厚生労働省人材開発統括官 安藤よし子氏に聞く

チャレンジする人を応援

「ハロートレ」でミスマッチ解消

という実情もある。職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）で何が行われているのか、知らない人も多いだろう。イメージアップの一環で「ハロートレーニング」という愛称を付け、キャッチコピーの『急がば学べ』も考えた。職業訓練指導員という特別な資格を持ったエキスパートの存在も知られておらず、人材も不足している。そこで『テクノインストラクター』という名称を付けた。人づくり革命といわれているのに、指導員が育たないようでは困る。認知度を高めるため、メディアの方たちにも取り上げてもらえるような機会も設けている」

——建設産業をはじめ、各産業で人材が不足している。ハロートレーニングは離職防止や定着率向上にどんな効果があるのか。

「未経験者が建設産業にいきなり入っても、すぐに現場作業ができるわけではない。一人前とはいかないまでも、訓練を受

けることが就職への敷居を低くすることになる。就職後に教わる機会が得られず忙しい環境に置かれてしまうと、そのこと自体がつらくなり結果として離職に至ってしまう。働く環境に近い公的職業訓練で一通りの技術・技能を身に付けることができれば、入職後のミスマッチも少なくなるだろう」

——公的職業訓練で定員が埋まらない状況がある。

「雇用情勢が改善して人手不足になっており、訓練を受けない人材でも引張りだこの状況にある。ただ人手不足だからこそ生産性を高めるという側面から、公的職業訓練を活用していただくことも考えられる。離職者訓練の隙間を利用して、在職者訓練を組み入れ、企業に活用してもらえようにしたい。17年度からポリテクセンターなどに『生産性向上人材育成支援センター』を設け、人材育成に関する相談や人材育成プランの提案、職業訓練の実施など、中小

企業の人材育成に必要な支援を行っている。在職者を訓練に出すのは難しい面もあるだろうが、小さい会社でも取り組んでいる。事業主の決断次第ではないだろうか」

——訓練を受けて就職する流れが建設業界にできれば良いのだが。

「建設業は有効求人倍率が高く、人材の不足や高齢化の進展も指摘されてきた。若い人材に公的訓練を受けてもらい、建設業界で働く人材を確保しなければいけない。訓練では安全衛生教育も行うので、生産性向上にも大きく寄与する。ハローワーカーに求める求職者とマッチングでくに来る求職者とマッチングできると、建設業界には仕事の魅力がより高め、PRしていただくことをお願いしたい。5年間の時限措置で取り組んでいる建設労働者緊急育成支援事業でも、受託者（建設業振興基金）が若者の興味を引くビジュアルに凝ったPRを展開してくれて

